

被爆 70 周年 ヒロシマを見つめる三部作

第 2 部 俯瞰の世界図

2015 年 10 月 10 日 (土) ~ 12 月 6 日 (日)

被爆 70 周年を迎える本年、広島市現代美術館では「ヒロシマを見つめる三部作」と題し、原爆被害を受けた広島を振り返り、復興の軌跡を見つめ、「今」そして「これから」を考える、3つの異なる視点に基づいた展覧会を連続開催します。(第1部 ライフ=ワーク [7月18日~9月27日]、第3部 ふぞろいなハーモニー [12月19日~2016年3月6日])

空から見つめた広島の喪失と再生。美術表現が示す「俯瞰」の視点で見つめるべきものは…。

70年前の8月、原爆投下という惨劇に見舞われた広島では、高台から撮影された写真などによって、壊滅の実状が明らかにされました。その後、建築家の丹下健三によって平和記念公園を含む都市計画として提示された、鳥の目で俯瞰したプランは、広島が平和都市として象徴的な存在となっていくための未来へのビジョンを明示しました。本展では、空から見つめた喪失と再生、二つの広島の姿を出発点として、ある対象を一望する「俯瞰」の視点でとらえ、都市や場所の過去を振り返り、現在を見つめる表現を紹介します。

普段は、目線の高さで見ている場所や物事を、高いところから見渡してみると、それまでは気づけなかった部分が見えるだけでなく、その場所や物事の全体像が見えてくるでしょう。混迷を極め、先行きに不安を覚える今の時代においてこそ、事態の把握を可能にする「俯瞰」の視点は、私たちの進むべき方向性を見極めるための手がかりを与えてくれるでしょう。

<出品作家>

ジャーナール・アル・アーニ、マシュー・デイ・ジャクソン、
チャールズ&レイ・イームズ、林重男、本城直季、石原正、ル・コルビュジエ、
林書楷、松江泰治、大岩オスカル、ニバン・オラニウェー、丹下健三、山口晃、
吉田初三郎

開催概要

- | | |
|--------|---|
| 【会期】 | 2015年10月10日(土)~12月6日(日) |
| 【開館時間】 | 午前10時~午後5時 ※入場は閉館30分前まで |
| 【休館日】 | 月曜日(ただし10月12日、11月23日を除く)、
10月13日(火)、11月24日(火) |
| 【観覧料】 | 一般1,030(820)円、大学生720(620)円、
高校生・65歳以上510(410)円
※()内は前売りおよび30人以上の団体料金
※中学生以下は無料
※11月3日(文化の日)は全館無料 |
| 【主催】 | 広島市現代美術館、中国新聞社 |
| 【後援】 | 広島県、広島市教育委員会、広島エフエム放送、尾道エフエム放送 |



山口晃
《Tokio 山水 (東京圖 2012)》2012 年
Photo: 木奥恵三
Courtesy of MIZUMA ART GALLERY



吉田初三郎
《グラフ誌『HIROSHIMA』表紙の下絵(原画)》広島平和記念資料館蔵



マシュー・デイ・ジャクソン
《1945年8月6日》2008年
個人蔵、Courtesy of GRIMM



大岩オスカル
《ガーデニング (マンハッタン)》2002年
東京国立近代美術館蔵



本城直季
《東京 2004》2004年
作家蔵、Courtesy of nap gallery